

お浄土と冥土について お彼岸によせて

今年の夏は、本当に酷暑でした。8月下旬には台風10号が発生し、九州や東海・関東地方では暴風や大雨による大きな被害が出ました。進路が定まらずに迷走し、さまざまな行事が中止になったり予定を変更したりするなどの対応に追われました。

暑かったお盆が過ぎるとツクツクボウシが鳴き出し少しずつ秋の気配を感じるようになります。そしてあっという間にお彼岸がやってきます。「暑さ寒さも彼岸まで」といいますから、お盆に比べれば随分と快適にお墓参りができそうですね。

ところで、亡くなられた方はどこにいらっしやるのでしょうか(もちろん物体としてのお骨はお墓や納骨堂に

ありますが)。

人が亡くなると、「ご冥福をお祈りします」という言葉をよく耳にします。冥福とは冥土での幸せのことです。冥とは「まっくらやみ」という意味ですから、そんな暗いところには行きたくないし、真つ暗なところで幸せとはちよつと想像ができません。

仏教では、この世の命が終わると、たちまちに、阿弥陀さまの願いによって仏となってお浄土に生まれると教えられています(往生)。お浄土は、清らかな蓮華が咲き誇り、芳しい香りが漂い、明るく光に満ち溢れた世界です。冥土ではなく浄土ですね。

「じゃあ、亡くなった方はお浄土におられるのですか?」、ブツブツ。お浄土に生まれた人は、また私たちの世界に帰ってきて、そして私にお念仏を勧めてくださっています。それは靈魂とか幽霊ではなく、「おはたらき」として常に私たちに寄り添ってくださいているのです(還相)。

亡くなった方は冥土におられないし、むしろ逆に私たちのことを心配してくださっているのですから、お念仏に包まれた日暮しをすることが、亡くなった方への感謝の気持ちを表すことになるのだと思います。

「ではお墓にお参りする必要もあり

9月(長月)

- 七日(土) 教礼講(住職)
- 八日(日) 教礼講・御同朋研修
- 十三日(金) 甲賀組僧侶研(住職)
- 一五日(日) お講(十一時)
- 二二日(祝) お彼岸

一〇月の予告

- すすはき 一九日(土)
- 報恩講 二六日(土)・二七日(日)

「いいえ、そうではありませんか?」お墓は亡くなられた方を偲び、また私たちも同じ道を歩んでいくことを気づかせていただく大切な場所です。お彼岸やお盆、お正月などの節目には是非お参りして手を合わせましょう。

ちなみに、お悔やみの言葉は、「謹んで哀悼の意を表します」や「慎んでお悔やみ申し上げます」などと言うのが良いでしょう。

清浄光を郵送します

門徒の皆さんにお配りしている清浄光を、離れて暮らしておられるご家族などに無料でお送りします。ご希望の方がおられましたら住職までお知らせください。

初参式をお勤めしました

「お誕生おめでとうございます」安食敬悟さんと京花さん夫妻のご子息「雄惺」ちゃんの初参式をおつとめしました。

初参式とは、人生の出発にあたって、その誕生を仏さまに報告し、仏さまの慈悲に包まれて生きていくことを共に喜ぶ法要です。ご家族が揃って参拝され、楽しく賑やかな式となりました。最後には、敬悟さんから感謝と決意を述べられ、まさにお念仏の声が子や孫に伝わっているのだなと、感激しました。

初参式を希望される方は、お気軽にお声がけください。(住職)



9月の掃除当番は、林幸治さんです。お世話様ですがよろしくお願いたします。



清浄光はインターネットでもお読みいただけます

世のなか 安穏なれ



清浄光

お寺めぐり(インド総集編)

ナマステー！ インド・ブツダガヤには、各国の仏教徒が建てたお寺がたくさんあります。それぞれの国の様式のお寺なので、お寺によって仏さまの表情や、飾り付けや建物の形まで違って

います。まさにお寺の万国博覧会です。もちろんインドの人たちにも仏教徒がいます。多くはヒンドウ教を信仰していますが、イスラム教徒もジャイナ教徒も仏教徒もいます。人口4億人のインドですから、仏教徒の割合は低くても人数はとても多いのだそう

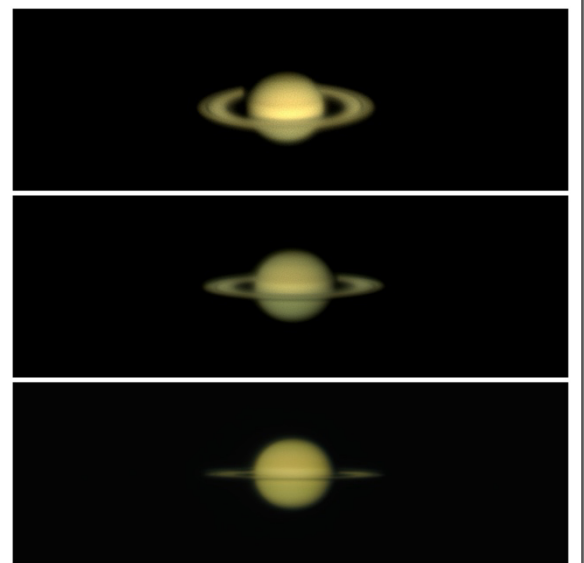
です。実は、ヒンドウ教にはカーストという差別制度があり、カースト制度の最下層のさらに外側にダリット(不可触賤民)と呼ばれる人たちがいます。このダリットの人たちがカースト差別のない仏教徒にたくさん改宗されているのだそうです。

平和な生活の石杖となる仏教。そのことを心に刻むインドの旅(仕事！)でした。大学生の時に、三蔵法師の足跡を訪ねて上海〜シルクロードを旅してから40年。ついに終着点の天竺に到着し、永年の夢を果たすことができました。

(住職)



住職の星空案内



ようやく朝晩が涼しくなってきましたね。夕空にはまだまだ夏を代表する、こと座のベガ(おりひめ)、わし座のアルタイル(ひこぼし)、はくちよう座のデネブなどが輝いています。

夜が更けてくると南東の空に土星が昇ってきます。土星は輪があることで有名ですが、実は毎年少しずつ見える角度が変わっていきます。右の写真が一番上が2022年、真ん中が2023年、一番下が2024年です。来年の春には地球からほとんど輪が見えなくなるそうで、その後はまた少しずつ輪が丸く見えるようになっていくのです。

秋は、月や惑星を見る絶好の季節、天気の良い日に星空を見上げてみましょう。

くいつクイズQUIZ

左は、正信偈の一説です。意味は、次のとおりです。

はるか西方のインドの論家や
中国・中央アジア・日本の高僧が
釈尊ご誕生の意味をあらわして
阿弥陀さまの誓いが私に向けられて
いることを明らかにされました
お釈迦さまは楞伽山で説法し
聴衆に(七高僧があらわれること
を)予告しました。

これをヒントに、左の空欄に当てはまる文字を左の枠内から選んでください。

- 印度 天之論家
- 中夏 日域之高
- 頭大聖興世 意
- 如来本誓応機
- 釈迦 来楞伽山
- 為衆告命南天

- ① 竺
- ② 西
- ③ 僧
- ④ 明
- ⑤ 正
- ⑥ 如

